

令和6年度 MDASHプログラム 自己点検・評価

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		評価結果
プログラムの履修・修得状況	B	2023年度の本プログラムを構成する5科目の履修人数はのべ531人であったが2024年度は493人と7%ほど減少した。本プログラムに加えて本学独自に学部学科の専門科目を加えた拡大プログラムである「Society5.0基礎プログラム」（MDASHプログラムに5科目10単位以上の修得を加えた内容）については1名が修了に至った。
学修成果	A	「授業評価アンケート」より学生の自身の学修成果を問う質問の結果では、本プログラムを構成する5科目の平均値は10点満点中7.7～8.4のスコアであった。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	「授業評価アンケート」より学生の理解度を問う内容の質問の結果では、本プログラム構成科目の理解度平均は5点満点中4.0～4.4で、回答学生中、平均以上の理解度を示した人数割合は85%～92%で高い割合の理解度を示していた。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	B	2025年度にはMDASHプログラム専用の評価指標を確立することを検討しているが、2024年度「授業評価アンケート」の授業時間中での自主的なコミットメントの項目についてあげると4.1～4.5の平均値であり、自身が一定以上の集中を求められる科目であるという評価は、主体的な学びが求められ他の学生への奨めに値すると捉えることができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	引き続き、オリエンテーションを通じた周知を継続的に実施して、全学的な履修率向上を推進する。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	本プログラムは2023年度からの開講となり、現時点で修了者の卒業生を輩出していないため、進路状況や企業等の評価を得るまでに至っていない。今後は修了者の進路選択動向や進路実績についての情報を蓄積して、プログラムの有効性を上げる手段を講じていく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	—	本プログラムは2023年度からの開講となり、現時点で修了者の卒業生を輩出していないが、2024年度より地元の情報産業団体に大学として加盟するとともに、2025年度より当該団体参加の企業も含めた科目の開講を契機に、産業界からのニーズを汲み取る機会を設定する。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	構成科目である1年次配当の「Society5.0と情報」科目では、グループによるプレゼンテーションを評価の必須内容としている。2024年度は、「Society 5.0、情報、データ、AI」を組み合わせたテーマをグループで検討した報告を課題とすることで、現在から将来で関わるのが必須の数理・データサイエンス・AIについて自身に引き付けて理解することに努めた。今後もこの方法は継続していく。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	B	授業評価アンケートの教え方に関する質問の平均値は、構成5科目で4.2～4.3の平均値であった。高校の課程で情報教科が必修化として定着し、自身の端末を持参する学生が増加することを見据えて、2024年度にFDSD研修会にて教育効果を促進させるアプリケーションの紹介や他大学視察による事例紹介を全学的に行った。本学教育における社会の変化を見据えた情報機器の活用やAI対応などを組織的に検討する部門の常設を、2025年度より開始することを計画している。

評価判定のグレード：A=優れている B=標準的である C=改善の必要がある —=評価対象外